

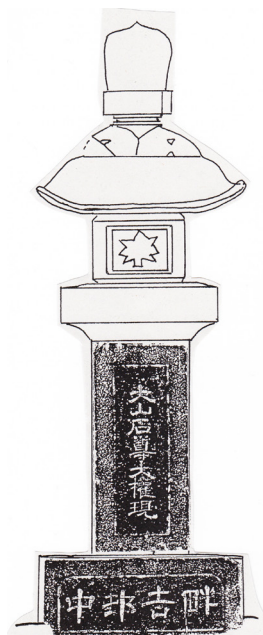
◇畔吉諏訪神社大山石灯籠（所在地／上尾市大字畔吉 835 番地）

相州大山信仰は、江戸時代から信仰が深まり多数の講を形成した。明治の神仏分離以降、阿夫利神社と大山寺に分かれたが、もともと一体のものとして信仰されてきた。

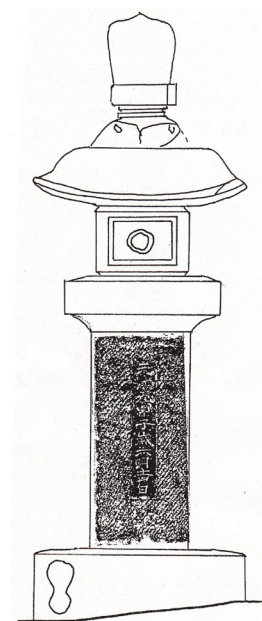
当該石灯籠の形状は、下から基礎・竿・中台・火袋・笠・露盤・請花・宝珠の八部で構成され、基礎の上に太めの竿部を立てる。火袋に特徴があり、正面に「天狗の団扇」、左右にそれぞれ「日」「月」の透かし彫りがある。竿部正面には「大山石尊大権現」と大書し、背面の元治元年（1864）の紀年銘から神仏習合時代の造立であることが判る。基礎正面に「畔吉邨中」とあることから、地縁的な集団により建てられたもので、石灯籠の制作に、上尾宿の石工が当たったことが、刻銘から知られることも貴重である。

法量（センチ）

総高	179.5				
基礎高	21.0	幅	59.0	奥行	57.5
竿高	63.0	幅	27.5	奥行	27.5
中台高	18.0	幅	45.0	奥行	46.5
火袋高	22.0	幅	26.0	奥行	26.0
笠高	18.0	幅	62.5	奥行	62.0
露盤高	9.0	幅	16.8	奥行	16.5
宝珠高	31.0	幅	35.0	奥行	24.5



正面



背面